



氏名 小豆 優世
所属 工学部 電気電子システム工
学科
学年 2年
留学先 オルデンブルク大学
留学期間 2025/10/1~2026/3/1

留学レポート Study Abroad Report

モチベーション

まずは自分がドイツの大学に留学した理由とその目的について書こうと思います。特に重要ではないので、読み飛ばしていただいて構いません。

私は中学生の頃から海外志向が強く、将来は自分の会社を持って国際的な舞台上で活躍したいと考えていました。そのために、海外経験のなかった自分は大学生の間で留学を経験して、実際の会話の中で英語を学び、同時に海外の文化や価値観を知っておきたいと考えていました。

当初は英語を学ぶために漠然とアメリカやオーストラリアやカナダなどの英語圏への学部留学を考えていましたが、交換留学先として選べる協定校を見て、それが叶わないことが分かりました。それからしばらく悩みました。アメリカには何校か協定校がありましたが、正直どれも自分の専攻から、惹かれませんでした。

高校の頃の恩師に相談したところ、英語を学びたいなら英語圏に行く必要はなく、ヨーロッパの学生と練習しあう方がいいという見方と、将来国際舞台上で活躍したいなら英語だけでなく他の言語圏、文化圏で生活した経験は必ず武器になる、という2つのことを教えて頂き、英語圏を諦めてドイツに決めました。ヨーロッパの中でもドイツにした理由としては、やはり言語としてドイツ語が英語と近いため、英語を話せる人が他のヨーロッパの国よりも多いと考えたのと、盛んな自動車産業をはじめ日本経済と共通点が多く、その上で環境先進国ということもあり、自分の将来に何か活かせることが見つかるのではないかと考えたからです。

それでも実際に渡航するまでは、ネイティブと話さないと意味がないのではと疑うことをやめられませんでした。

実際に渡航してみて

実際にドイツの大学に留学してみて感じたこと、得たことは数え切れませんが、まず学生はみんな英語がとても上手でした。そしてドイツ人というよりは他の国からの留学生と話す機会がほとんどで、みんな英語が上手でした。自分よりもはるかに流暢な英語を話す友達と生活する中で、私の英語力は大きく向上したと実感しています。

1. 授業の様子

ドイツでの授業では、学生はみんな真剣に耳を傾けてノートを取り、よく質問や発言をします。出席点のために行って寝る日本とは真反対でした。授業中に眠くなることは何度もありましたが、他の生徒の授業態度を見てジャパニーズだけが授業中に寝るのが恥ずかしくてなんとか眠気を我慢していま

した。

それに履修登録がいつでもできます。私は最初ドイツ語、EU にフォーカスした経済学、環境経済学、専攻のコンピュータサイエンスを履修してましたが、途中で環境経済学を取り消し、植民地や移民の歴史と現状の授業を新たに履修しました。

そして、当初英語での授業ということで全くついていけないのではと少し不安に感じていましたが、教授の英語がそこまで早くなく発音も聞き取りやすかったので、心配していたほど大変なものではありませんでした。

2. 金銭面

ドイツでの買い物は、基本的にすべて日本の2倍くらいします。

JASSO と海外留学奨励制度 B で奨学金を頂けていたので生活は十分できました。

3. 生活面

外食は高すぎるので、基本的に自炊していました。前半は日本であまり作ったことのないパスタ料理に挑戦していましたが、徐々に日本のごはんが恋しくなり、みるく米という、癖が少なくうまく炊けば日本の白米とほとんど変わらないお米を見つけ、アジアスーパーで醤油など日本の調味料も買ってそれで生活していました。また、学校の食堂は大阪公立大と違って学生用にとっても安くなっており、昼ご飯はほとんど食堂で食べていました。持ち帰り容器も借りれるので、何度か夜ごはん用で持って帰ることもありました。

4. 英語について

最初の方は英語で会話するというのに慣れていなかったため、会話の中で何度も聞き返したり、わからなくても相槌を打って会話を進めていくのがしんどくて、会話を拒絶してしまうことも多くありました。

それでも少しずつ仲良くなった友達とはよくしゃべるようになり、英語での会話に慣れていったと思います。

留学前は、英語を話す際何かの発表をするような緊張感がありましたが、留学を経て英語をコミュニケーションの手段として、日本語で会話するように英語を話せるようになったと実感しています。

5. 人間関係について

授業が始まる前に1週間、学校の公式の団体が毎日イベントを開催してくれたので、そこで多くの友達ことができました。それ以降も友達の家で開かれたパーティに行ったり、バーに行ったりして友達と話したり、新しく友達を作ったりして、交友関係を広げていきました。友達にはヨーロッパだけでなく、インドやアメリカ、メキシコなどの国出身の人もいて、文化や食べ物、政治や社会問題についてまで色んなことを話しました。その中でも特に移民問題が印象に残っています。日本では移民問題がヨーロッパほど深刻でなく、私は他人事としてあまり考えたことはなかったのですが、彼らはそれらの問題について豊富な知見を持ち、それぞれが自分の意見、主張を持っていました。彼らと話し、同時にドイツの街を歩くことで、その移民問題の深刻さを初めて肌で感じ、国際社会でよく言われている社会問題について、日本でそれを感じることはなくともある程度の関心と知識を身に付けておくことが必要だと感じました。

6. 困ったこと

今でも困っていますが、手続きが煩雑過ぎました。入国してから最初に住民登録、通信会社と契約、銀行の開設、閉鎖口座からの入金設定など、、普通に生活し始めるまでに2週間ほどかかりました。そしてドイツを出る直前に2週間旅行しており、もろもろの解約手続きができなかったことで帰国後の今その解約手続きに追われています。

留学を終えて

帰国して2週間ほどですが、時差ボケが残っています。そしてドイツでの生活に懐かしさを感じながらも、まだ余韻のようなものが残っているようにも感じています。寮を退去するときルームメイトに「も

「う帰るん！早いもんやなあ」的なことを言われましたが、私も心底そう感じています。このドイツでの半年間という期間は、間違いなく私の人生を今までのものとは別のものに変えてくれました。英語力の向上と異文化を知ることを目的としていきましたが、その目的の達成だけでなく、自分自身の成長と多くのかけがえのない経験ができたと思っています。本当に行って良かったと思います。

写真



1枚目はハロウィンパーティーの時の写真です。私はスポンジボブの仮装をしたところ、結構ウケました。2枚目はハンブルクの教会です。ドイツはいたるところに協会があり、細部までこだわりぬかれた建築で迫力がすごかったです。



3枚目はオルデンプルクのクリスマスマーケットです。どこの町でもクリスマスマーケットがあって、大きさはさまざまですがどこも可愛くて賑わっていて、楽しかったです。他にもドイツ国内でブレーメンやハンブルクをはじめ5か所程と、ウィーン(4枚目)、ブダペストなど他国のクリスマスマーケットにも行きました。ヨーロッパのクリスマスマーケットではグルーワインという暖かいワインが人気で、そのマーケットでしか手に入らない各地の限定マグカップに入れて渡してくれます。カップ自体は5€ほどのデポジットで、飲んで返したらお金は帰ってきますが、どこのマーケットのカップも可愛すぎたので、厳選していくつか返さずに持って帰りました。